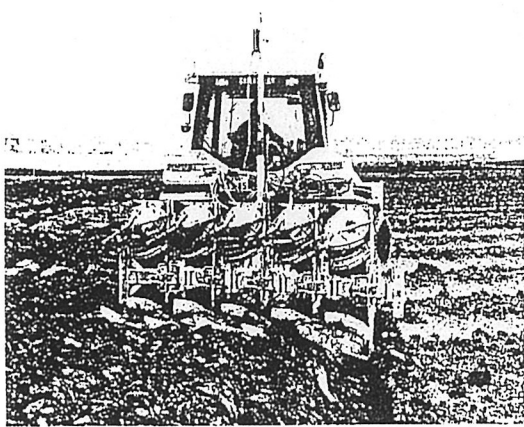


大区画ほ場の均平で新工法

土にやさしく、短時間、低工費

深川市で実演会



レーザーブラウで反転作業。すき床を均平にする

ほ場の大区画化による一層の省力化、低コストが求められている中、レーザー光線を利用して反転均平する新しい基盤整備工法の実演会が五月八日、深川市で開催された。新工法は、レーザーブラウで表土を移動せずにその場で反転しながら基盤を平らにし、その後、レーザーレベラーで作土層を均一にしながら高低差をほとんどなく均平するもの。ブルトーザーによる施工に比べ、工期の短縮、事業費の削減、練り返しによる土壌悪化防止などの利点があり、関係者から期待されている。

空知支庁北部耕地出張所が主催し、深川市土地改良区が共催。

当日は、これまで七区画に分かれていた高低差のあるほ場を、四・七haの一区画の均平なほ場にする実演が行われた。

施工の方法は、まず、畦畔を除去し、暗渠施工のほ場の排水性や透水性を促すため、サブソイラーで耕盤層を破壊、また、モミサブローでモミガラ暗渠を施工する。

そして、レーザーブラウで作土と心土を反転施工、高いほ場は深く、低いほ場は浅くし、すき床を均平にする。その後、レーザーレベラーで高いほ場の心土を低いほ場へ運び砕土、整地、鎮圧、均平を行う。

この工法では、作土を移動せず、全体の土質がほぼ均一となり、整地後の高低差はプラスマイナス二・五cm、さらに、ほ場の透水性が良くなる。また、工期は、ブルトーザーによる作業の三・四分の一となり、工期に制限のある道内では、「この工法なら、秋と春先のわずかな期間で作業を済ませることができる」と関係者は期待している。

反転均平工法(仮称)の提案と手順

1、秋収穫後

春、土を早く乾かし、工期を短縮するために、

- 1) 畦畔を除去する。
- 2) サブソイラ・モミサブローを施工する。
 - ・暗渠施工のほ場は排水性や透水性を促す。
- 3) 溝掘りを施工する。
 - ・ほ場内の雪解け水を早く外へ出す。

2、春先

- 1) レーザーブラウで作土と心土を反転施工する。
 - ・すき床を均平にする。
 - ・心土を乾かす。練り返しがない。
 - ・作土は移動しない。
 - ・わらなどの有機物をすき込む。
- 2) レーザーレベラーを施工する。
 - ・表層を砕土、整地、鎮圧、均平にする。
 - ・高低差土2.5cmに仕上げる。

